

大路ニ低ニ倒レニケリ、略古ヘハ此ク世ノ嗚呼ノ者ノ有ケル也、略下

〔今昔物語二十四〕安倍晴明隨忠行習道語第十六

今昔天文博士安倍晴明ト云陰陽師有ケリ、略中廣澤ノ寛朝僧正ト申ケル人ノ御房ニ參リ、物申シ承ハリケル間、若キ君達僧共有テ、晴明ニ物語ナドシテ云ク、其識神ヲ仕ヒ給フナルハ、忽ニ人ヲバ殺シ給フラムヤト、晴明道ノ大事ヲ此ク現ニモ問ヒ給フカナト云テ、安クハ否不殺、少シカタニ入テ様ヘバ必ズ殺シテム、虫ナドヲバ塵許ノ事セムニ必ズ殺シツベキニテ、生ク様ヲ不知バ罪ヲ得ヌベケレバ由无キ也ナド云フ程ニ、庭ヨリ蝦蟆ノ五ツ六ツ許踊リツ、池ノ邊様ニ行ケルヲ、君達而レバ彼一ツ殺シ給ヘ、試ムト云ケレバ、晴明、罪造リ給フ君カナ、而ルニテモ試ミ給ハムト有レバトテ、草ノ葉ヲ摘切テ物ヲ讀様ニシテ、蝦蟆ノ方ヘ投遣タリケレバ、其ノ草ノ葉蝦蟆ノ上ニ懸ルト見ケル程ニ、蝦蟆ハ眞平ニ□テ死タリケル、僧共是ヲ見テ色ヲ失テナム恐テ怖レケル、

〔百練抄崇徳〕保延四年三月廿一日、神泉内蝦蟆鬪諍、

〔本朝世紀〕仁平元年四月二日癸卯、二條櫛笥小路池水邊、蝦蟆相鬪、

〔百練抄高倉〕治承四年三月十六日、於海橋立池、蝦蟆合戰、互決雌雄、又蝦蟆食殺雌、見者如垣、賀茂上

社同有此事云々、

〔百練抄安徳〕壽永二年十二月廿五日、於鳥羽南樓門外、蛙與雌合戰、雌死去、謂咎徵、

〔明月記〕寛喜二年六月廿四日、東小壺有雌、以友村令取弃、腹中飲物、出庭中之間、漸吐出之、蛙也、未死、漸搖令入水中、無事存命云々、於蚶、弃川原、蛙已生、非惡事哉、

〔古今著聞集二十〕魚虫禽獸、寛喜三年夏の比、高陽院殿の南の大路に堀有、蝦數千あつまりて、方ざりてくひあひけり、ひとつがい〜くひあひて、或はくひころし、或はかたいきして、はら、じろに成て